

大学連携関係者の皆様、

秋も深まり、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

去る9月5日、パラリンピック競技大会の閉会式を迎えました。9月8日には選手村も閉村し、オリンピックに始まった東京大会を無事に終了することができました。新型コロナウイルス感染症という未曾有の困難の中での大会開催は、何よりも関係者の皆様のご協力により可能となったものです。心から感謝申し上げます。

アスリートの皆さんからは「東京が用意してくれた舞台で、最高のパフォーマンスを発揮できた」と多くの感謝の声が寄せられました。大会開催に様々な声がある中でも、開催を信じて努力を続け、多くの制約があった中でも、これまでの大会と変わらないアスリートの躍動によって、大会をご覧になった全ての方に、感動や希望が届けられたと思います。

IOCのバッハ会長からは「このオリンピックの後、日本人は世界中の人から賞賛を受けるだろう。青写真もロールモデルもない中、大会を実施し歴史を作った」との言葉が、また、IPCのパーソンズ会長からは「東京でなければ、この大会は成し遂げられなかった」、ケール副会長からは「パラリンピックのアスリートは不可能を可能にする。皆さんも不可能を可能にしてくれた」との謝辞がありました。

大会後には専門家からも、早期に無症状のうちに陽性者を発見できる体制が取れており、その後大きく拡がらない体制もとられていたと評価をいただいています。

大会は、コロナ禍の下での最初の世界的イベントとして、コロナと闘いつつ、社会の営みを継続するための一つのモデルを示すことができたと思います。

一方で、この予期せぬ困難の中で、関係者の皆さまも、計画の変更を余儀なくされ、順調とはいかない時期も多くあったことと思います。大会を終えた今、東京大会のレガシーをしっかりと構築し、よりよい社会への変革へとつなげていくことが何よりも重要です。後に振り返った時に、「東京大会が変革の転換点だった」と言われるように、組織委員会は、さらに取り組みを進め、いずれ皆さまに還元できるようにしていくことが、これまでのご労苦に応えられる唯一の道であると考えています。

組織委員会結成以来の7年半の道のりは、皆様のご協力とご理解なくしては達成不可能でした。改めて、敬意と感謝を申し上げます。

2024年には、パリ大会が開かれます。関係者の皆さまのスポーツ界への引き続きのご支援をお願いいたしますとともに、一層のご発展をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

10月吉日

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 会長

橋本 聖子